



川松康德

GRAFICTION

2026年7月5日^{〔日〕}－9月23日^{〔水・祝〕}

なら歴史芸術文化村

〔滞在制作〕

芸術文化体験棟3階 スタジオ301・302

9:00－17:00 | 休館日：月曜日・月曜日が祝日の場合は、翌平日が休館

*アーティストが不在の場合がありますが、期間中はいつでもスタジオの様子をご覧いただけます。

主催：なら歴史芸術文化村

助成：一般財団法人地域創造

協力：奈良芸術短期大学



文化村クリエイションは、先進的な取り組みを行うアーティストを招へいし、文化村を拠点に制作・発表を行うなかで、創作の過程を開いていく試みです。
「∞」となる今回は、アーティストの川松康徳を迎えます。

川松は国内外での多くの展覧会やアーティスト・イン・レジデンスでの制作において、おもにリサーチや取材をもとに架空の物語を創作し、そこからテキストや映像を用いたインスタレーション作品をつくりあげます。

テーマに「アイデンティティ」を挙げる川松は、「人のアイデンティティは個人の内面だけで完結するものではなく、周囲の人々や取り巻く環境との関わりの中にも存在する」という視点から、特にインタビュールなどによる他者とのコミュニケーションを積極的に取り入れながら作品を制作しています。

奈良の「薬草」と「土壁」に着目した今回の滞在制作では、ボランティアサポーターとリサーチや取材・制作・対話などを通じて協働しながら、身体と感情、人間と社会といった関係を見つめ、捉え直すきっかけとなる演劇作品「粉粉と黄黄」（フンブンとキキ）を制作・上演します。



私たちは幸運にも、長い歴史を遡ることができる。もちろん完璧に、ではないけれど、何百年も前に作られたものを見て、幾百年も続く技術に触れて、

千年を超えて続くしきたりに関心することもできる。その長さが私たちを支えることもあれば、自由という少し生意気な気分で、長さの重さを煩わしく思ったりもする。

奈良はその重さと自由のどちらもが存在できる場所です。私はその長くて重たいものの中から、ふたつのもの——「薬草」と「土壁」を選びました。

仏教とともに渡来した医薬文化は、のちに独自の漢方へと昇華していきます。

奈良はその中心にありました。今回の滞在制作では、この医薬文化を支える薬草の生態と、くすりとしての精製、処方という概念を通じて、植物と人のやりとりに含まれる密やかな

「交換可能性」を感じられる作品を作りたいと考えています。そして土壁は、その交換可能性を表すデバイス（装置）のようなものとして、作品の中に登場してくるでしょう。

薬草というと率直に、ケアやスローライフと結びついてヘルシーな表現をイメージするかもしれませんが、でも実際は、薬草たちの戦略にまんまとはまって、

生存確率を最大化する家来みたくになっているホラーなのかもしれない。捉えられるように現実を考えて纏めてしまうよりも、捉えられなくてもいいと思える態度が、

現実を動かしてくれるのかもしれない。

GRAFFITION

川松 康徳

2026年7月5日^{〔日〕}－9月23日^{〔水・祝〕}

なら歴史芸術文化村

〔滞在制作〕

芸術文化体験棟3階 スタジオ301・302

9:00－17:00 | 休館日：月曜日・月曜日が祝日の場合は、翌平日が休館

*アーティストが不在の場合がありますが、期間中はいつでもスタジオの様子をご覧いただけます。

主催：なら歴史芸術文化村
助成：一般財団法人地域創造
協力：奈良芸術短期大学

◎関連企画

*すべて予約不要・無料

参考作品展示：2026年度滞在アーティスト紹介

6月23日^{〔火〕}ー9月23日^{〔水・祝〕}（月曜日休館 *9月21日^{〔月・祝〕}は開館）

場所：なら歴史芸術文化村 芸術文化体験棟3階 スタジオ304

文化村クリエイションや川松についてご紹介する展覧会を開催します。

※会期中、会場の変更や作品の追加があります。

アーティストトーク：川松康德

8月11日^{〔火・祝〕} 15:00ー（90分程度）

場所：なら歴史芸術文化村 芸術文化体験棟3階 交流ラウンジ

これまでの川松の制作・活動の紹介とともに、現在に奈良で進めているリサーチの様子や、そこから創作を進めている演劇作品「粉粉と黄黄」の構想などについてお話しいたきます。

『粉粉と黄黄』シナリオ読書会

9月5日^{〔土〕} 15:00ー（75分程度）

場所：なら歴史芸術文化村 芸術文化体験棟3階 交流ラウンジ

「粉粉と黄黄」のブラッシュアップに向けて、川松の散文的に構成されたプロット（断片的な物語）の朗読を通して、参加者のみなさんを変えた意見交換を行います。

◎成果発表 | 演劇公演

*各終演後にはアフタートーク（20分程度）を行います。

粉粉と黄黄

9月19日^{〔土〕} 15:00ー

（開場14:45・上演45分程度／定員15名先着順・無料）

会場：Art-Space TARN

632-0016 奈良県天理市川原城町326-1（天理市本通り商店街内）

アクセス：JR・近鉄天理駅より天理本通り商店街を通り徒歩7分

9月20日^{〔日〕}

9月21日^{〔月・祝〕}

9月22日^{〔火・祝〕}

毎回とも10:30ー（開場10:15・上演45分程度／予約不要・無料）

会場：なら歴史芸術文化村 芸術文化体験棟地下1階 文化村ホール

632-0032 奈良県天理市袖之内町437-3

アクセス：JR・近鉄天理駅より直行デマンドシャトル運行（有料）

奈良交通バス「勾田（まがた）」下車 徒歩15分

 なら歴史芸術文化村

お問合せ：TEL=0743-86-4420（代表）
WEB=https://www.pref.nara.lg.jp/site/bunkamura/
最新情報は文化村ホームページやSNSをご確認ください。



天理駅から文化村への移動は、
天理ーなら歴史芸術文化村の直行デマンドシャトル（1名300円／1乗車）をご利用ください。
電話予約：050-2018-0107 *Art-Space TARNに停留所はありません。天理駅からご乗車ください。

アプリ予約：



川松康德 Yasunori Kawamatsu

1984年生まれ、群馬県を拠点に活動。

記憶を主要なモチーフに、身体的・文化的なバイアスからアイデンティティを解き放ち、自己が他者の中へと開かれる「アイデンティティの分有」を目指す。ドキュメンタリーや

インタビュの手法を用い、移民や失踪者家族、国籍不特定者など、

アイデンティティに葛藤を抱える人々の記憶に焦点を当てる。

語りの中に現れるサイジョンや振る舞いを追跡し、その過程を

「他者の中に自己を開く」プロセスとして具体化してきた。

近年は、その過程で見出した設定から架空のシナリオを執筆。

登場人物の意識の揺らぎや、それが内面化される

アイデンティティの形成プロセスを示すインスタレーションを制作している。

主な展覧会に、都美セレクトシニンググループ展2026「BBBdada」
（2026・東京都美術館）、「BodyBuddyBaby」
（2024・京都芸術センター）
アルゼンチン国立東洋美術館共催個展「NARRATIVISUAL.V」
（2024・ブエノスアイレス）MACBA（2024・ブエノスアイレス現代美術館）
「KYOTO STEAM 2022」
（2022・京都市京セラ美術館）など。

 
@narabunkamura

 
@nara_bunkamura

